

主な質問・意見等

1 フッ化物洗口の実施状況について

意見1	市町村の中の一部の幼稚園や保育所等だけがフッ化物洗口を実施するのではなく、小中学校含めて179市町村全部のまちでフッ化物洗口ができるよう努力していただきたい。
意見2	コロナの影響でフッ化物洗口を一度中断した施設について、現場の力だけで再開するのは難しいと思うので、現場に寄り添った支援をお願いしたい。

2 歯科疾患実態調査

質問	調査項目にBDHQ質問表を使用するとなっているが、ある程度の知識がないと答えられない質問もあると思うがどのように行ったのか。毎回この方法で行われているのか。
回答	コロナ禍での、保健所の実施体制、住民との接触を極力減少させるという観点から今回初めてBDHQに調査方法を切り替えた。 実施の際は、本人に記入いただき、保健所または市町村で、専門職が確認し回収、また一部郵送での回答を依頼したが、記入漏れ等は電話で確認するなど対応を行った。

3 歯科衛生士の勤務実態調査結果について

質問1	調査結果をもとに考察は行っているのか。
回答1	暫定版となっており、今回の協議会でいただいた意見をもとに検討していきたいと考えている。
質問2	アンケートの大きな目的の一つが復職支援をどのようにしていくか考えたとき、年齢構成、それから配偶者、子どもの数が地域によってどのような違いがあるのか、そういったところを分析していただけると具体的なあり方が見えてくると考える。
回答2	地域差の年齢構成の部分については、まだ分析していないのでいただいた意見をもとに、これから確認させていただきたいと思います。常勤・非常勤の状況については把握しておりまして結婚されていてお子さんがいる方が比較的非常勤で勤務されている方が多いという状況となっております。
意見1	歯科衛生士のなり手が少ない。子どもが少ないのと、他の医療関係の専門学校でも定員が割れているためどこでも入れる。そこで歯科衛生士を選んでもらうにはかなり条件がよくないと難しいと考えている。都会では給与も非常に上がってきて、労働環境もよくなってきているため、そういったアピールを関係各所で継続してほしい。
意見2	歯科衛生士の就業年数がそんなに長くない時期も一時期あったが、だんだん長くなってきており、いわゆるベテランの歯科衛生士が増えてきて子育てを終えられた方の総対数が非常に増えてきている。今後は介護の問題も出てくると思うがそういった人たちが復職につながるシステムづくりだとか横の連携が取れるようなものが存在するといいいのかなと考える。
意見3	所属先では復職支援の研修会を実施しておりますが研修会に来た方全ての方が就職するというではありませんが、自分の家庭の事情が許すときにやってみようという動機付けには確実に繋がっているのではないかと考える。